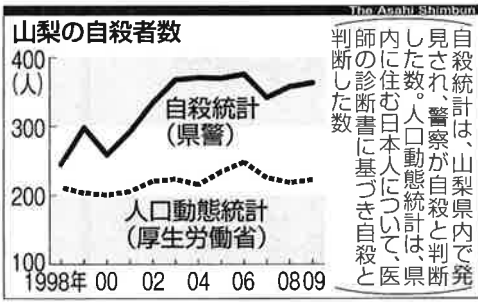


「自殺の樹海」もう呼ばせない

警察庁が公表した人口10万人あたりの自殺者数を示す「自殺率」が、3年連続ワースト1の山梨県。自殺者の3割近くが県外在住者という。地元では、自殺が相次ぐ富士山のすそ野に広がる青木ヶ原樹海を「命をはぐくむ自然の名所に」との取り組みが進んでいる。

(佐藤美鈴)

もっと知りたい!



自殺統計は、山梨県内で発見され、警察が自殺と判断した数。人口動態統計は、県内に住む日本人について、医師の診断書に基づき自殺と判断した数。



ウォーキングイベントも

青木ヶ原樹海のイメージアップをめざして昨秋開かれたウォーキングイベント＝山梨県富士河口湖町

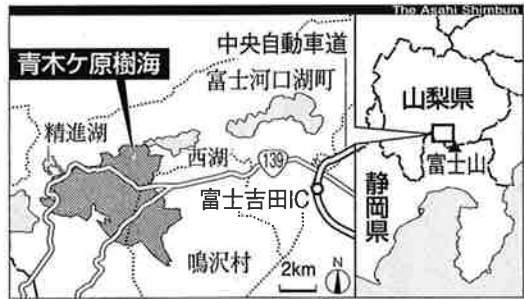
青木ヶ原樹海の地元の富士吉田署には毎日のように、「自殺しよう」と歩いている人がいる。「死にきれないので助けてください」などと連絡が入る。2009年は樹海で45人が自殺しているのが見つかり、1995人が保護された。樹海にきた理由については「自殺の名所だったから」と答える人が多いという。松本清張の小説やインターネット

などで取り上げられている。警察庁によると、09年の山梨県の自殺率は41・9。秋田の40・0、青森の39・4を超え、全国平均の25・8を大きく上回る。都道府県別で07年に秋田県を抜き、3年連続で全国一の高率だ。

一方、厚生労働省の人口動態統計で09年の山梨県の自殺率は26・0で、全国で17番目にとどまる。この差は、厚生

省の統計が居住地を基準とするのに対し、警察庁は遺体発見場所を基準とすることによるものだ。山梨県警によると09年の自殺者363人のうち県外在住者は28・4%にあたる103人。県外から来る人が自殺率を押し上げている。

地元では自殺を防ぐための活動の輪が広がっている。



樹海入り口の売店で監視員を務める川村保彦さん(39)は、バス停や遊歩道でひとり歩く人や、様子が気になる人に「どうしましたか?」と行き先や目的を尋ねる。昨秋

からの半年間で約30人を保護した。

山梨県は10年度、自殺防止を重点項目に掲げ、国の基金を活用し過去最高の5374万円を計上。昨秋からは周辺の売店で声をかける監視員4人を配置し、今年4月に2人増やした。緊急雇用対策で警察と連携し地域を巡回する委託職員も6人採用した。

自治体や警察、観光会社、タクシース会社、医療関係者など18団体で08年6月、「いのちをつなぐ青木ヶ原ネットワーク会議」も発足。地域住民の「声かけボランティア養成講座」も5回開き、延べ350人が参加した。「相手の話に耳を傾け、言葉と気持ちを受け止める」などの心得や相談機関を紹介している。

を営む貫井豊さん(55)は4年前から、樹海の自然を紹介する町公認のネイチャーガイドを務める。観光客に「ゆつくり成長を続けている樹海は、いのちをはぐくむ場所です」と説明する。ほぼ手つかずの原生林は、溶岩の上に無数に広がる木の根に青緑色のこけが生い茂り、倒木から日々新たな芽が生まれ、鳥や小動物たちが暮らす。

消防団員として樹海の一斉捜索に参加していたが、自然の魅力にあふれた樹海の本来的姿に気づき、ガイドになった。「説明して実際に歩いてもらい、『怖い』『怖い』というイメージを変えたい」という思いを込めて活動している。

「地元では「大自然の鼓動」と記したポスターやバツジを作り、ウォーキング大会も開く。自殺多発場所とされる福井県坂井市の東尋坊や和歌山県白浜町の三段壁で防止活動を続ける人たちが連携し、昨秋には全国組織「自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあい」を結成した。

自殺対策や遺族支援に取り組むNPO「ライフリンク」の清水康之代表は「自殺を考える人が多く集まる場所は、生きる支援を展開する重要な拠点になり得る。山梨の自殺率の高さは、日本全体の問題でもある」と話している。

自然に恵まれた青木ヶ原樹海の魅力を伝え、「自殺の名所」のイメージを改めようという取り組みも進む。

富士河口湖町でペンション

自然に恵まれた青木ヶ原樹海の魅力を伝え、「自殺の名所」のイメージを改めようという取り組みも進む。

富士河口湖町でペンション